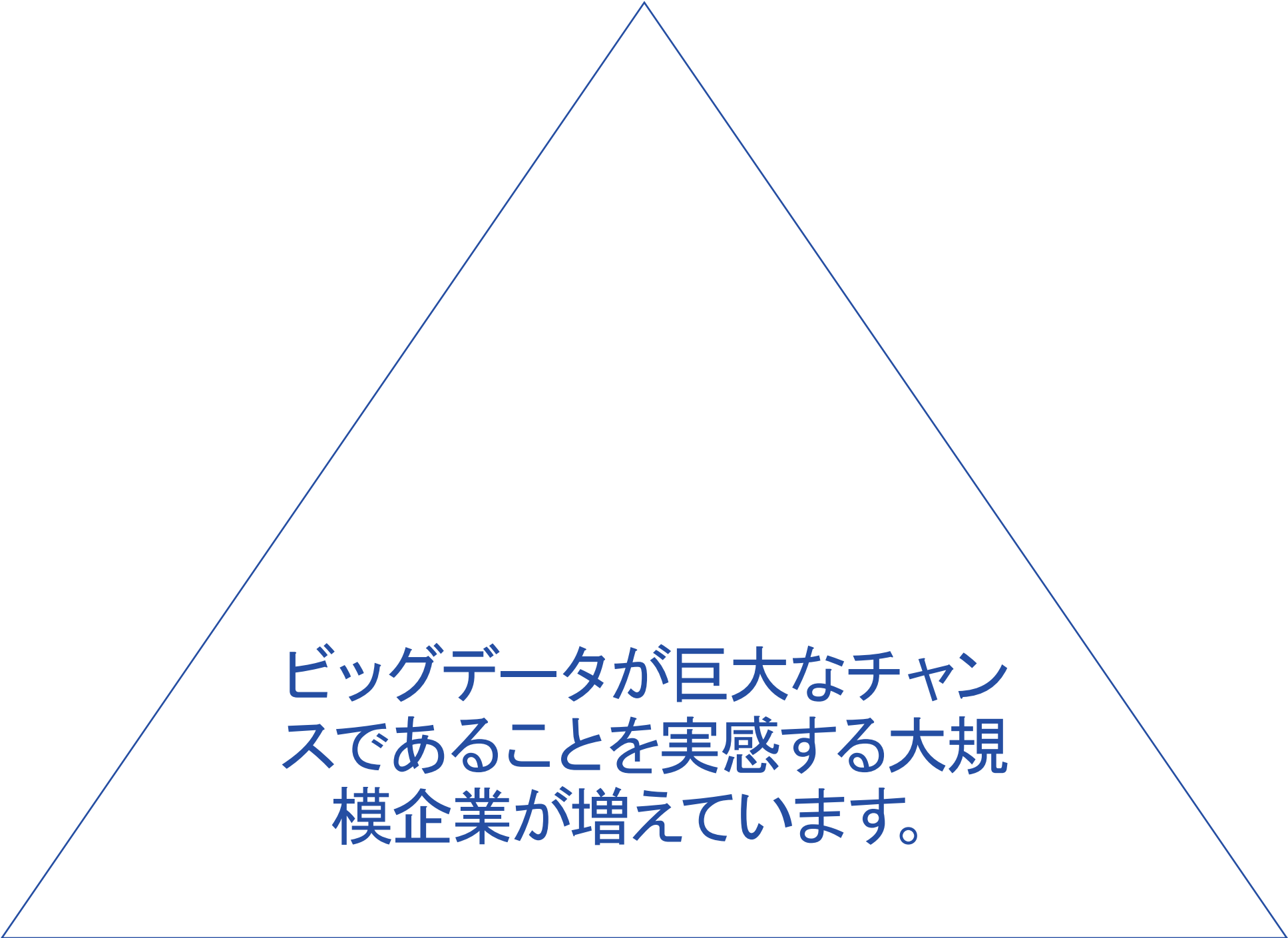


# ビッグデータ プロジェクトの サイレントキラー








ビッグデータでやってはいけない最大の過ちを回避するには


規模が大きいと  
失敗の度合い  
も大きくなる。



ビッグデータが巨大なチャンスであることを実感する大規模企業が増えています。

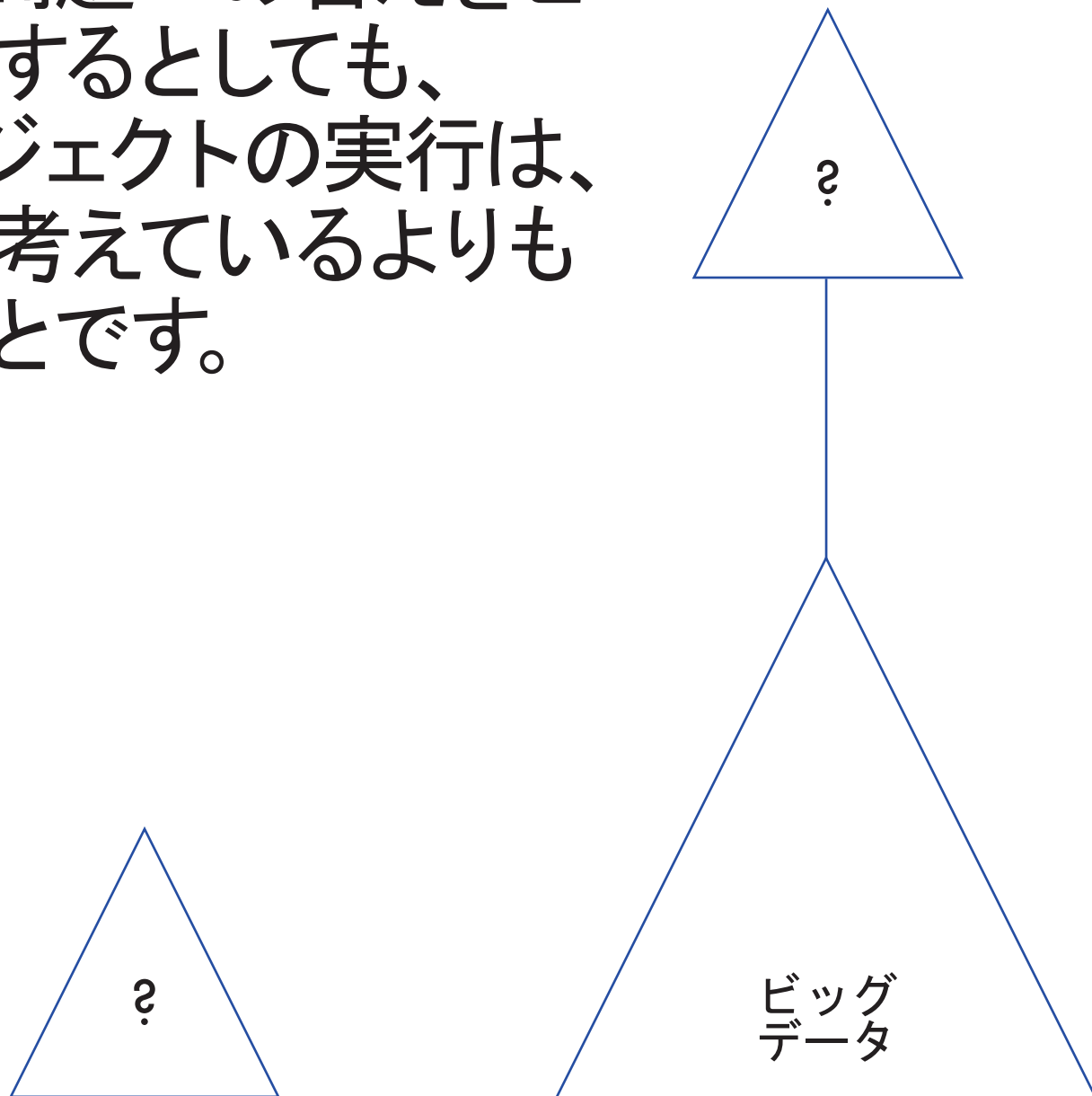
# ビッグデータはさまざまな チャンスをもたらします:

-  顧客および自社と顧客との関係を理解
-  より的確な製品の提案
-  顧客が各種チャネルをどう利用しているのかを把握
-  リスクの管理者にリアルタイムのアナリティクスダッシュボードを提供
-  在庫管理方法を最適化
-  サプライヤーとの関係をより効果的に管理
-  リアルタイムの需要に基づいて製品を提供



ビッグデータによって実  
現可能なチャンスに限り  
はありません。

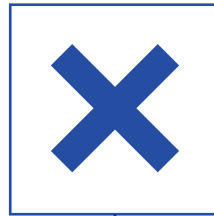
たとえ現在の企業が抱えている最も重要ないくつかの問題への答えをビッグデータが提供するとしても、ビッグデータプロジェクトの実行は、ほとんどの企業が考えているよりもはるかに困難なことです。



実際、ビッグデータ  
プロジェクトの

半数以上

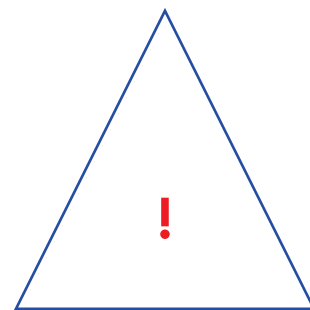
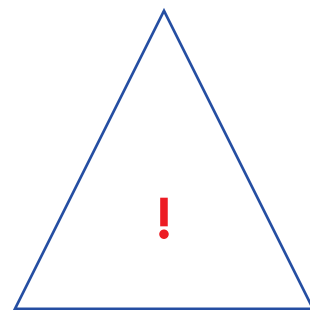
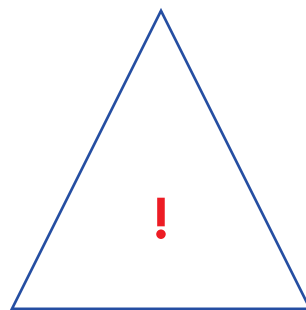
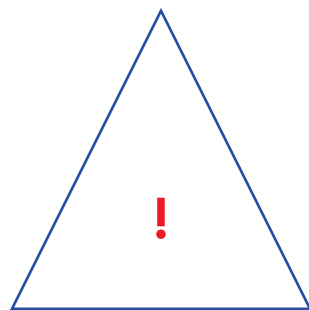
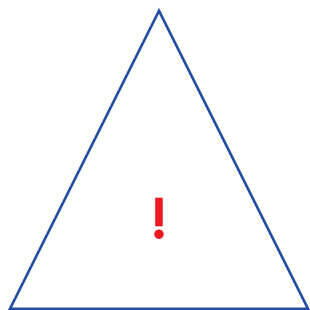
が、完了に至って  
いません。<sup>1</sup>



失敗の理由は、コストの超過や過度の遅延、不明確な目標設定、データ専門家の不足など、多種多様です。<sup>2</sup>



しかし多くの場合、これらの表面的な理由の背後には、誰にも気付かれることのない、ビッグデータプロジェクトにとっての最大の脅威が潜んでいます。それが・・・



質の低い  
データです。



# 重複している／不一致／ 不完全／エラーがある／ 信頼できないデータ。



重複は、複数のソースシステムからのデータ取り込みによって生じます。



不一致は、異なる形式で保存することによって生じます。



不完全は、データ入力時の確認不足によって生じます。

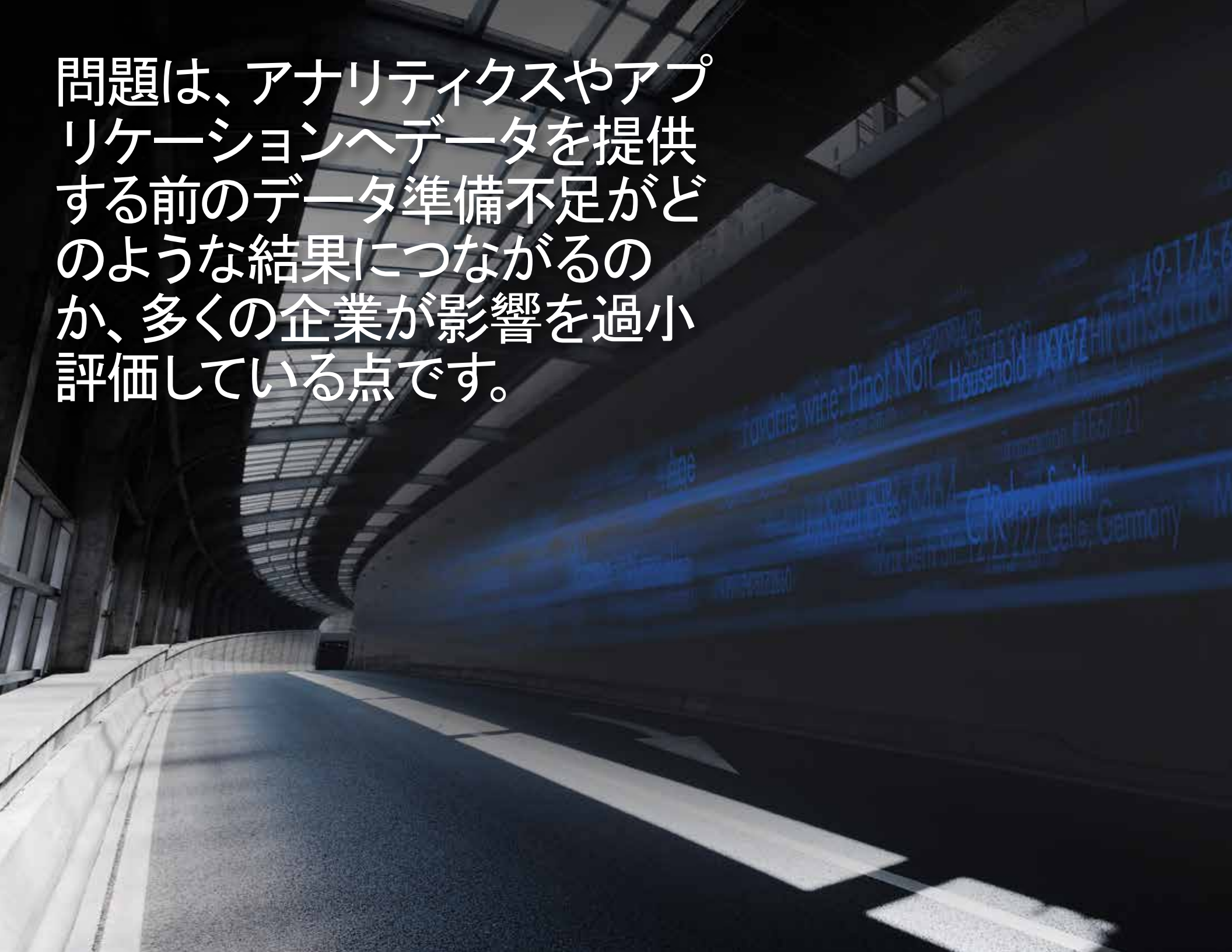


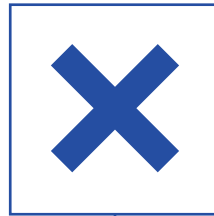
エラーは、クレンジングを実施しないことによって生じます。



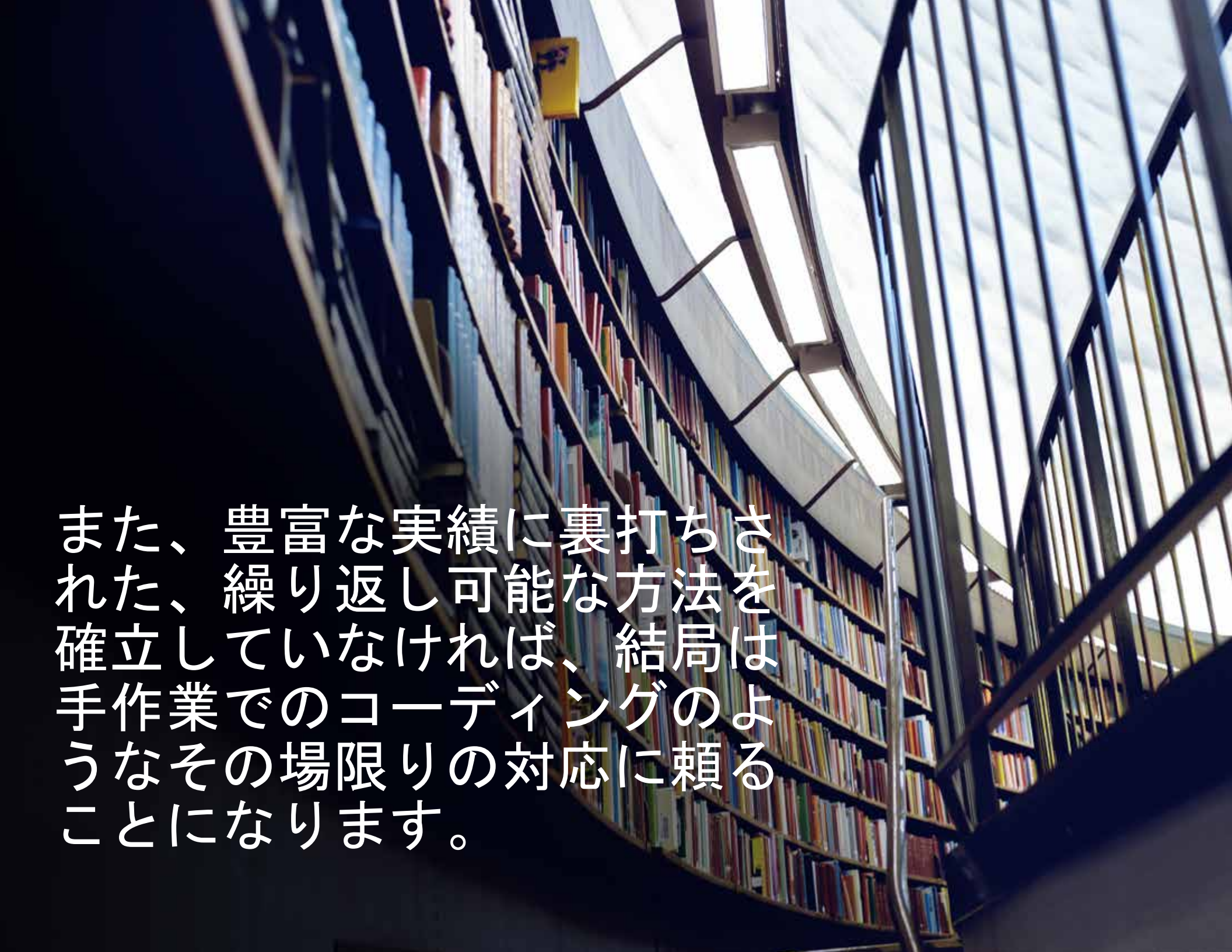
信頼性の欠如は、異なるバージョン（最新ではないなど）のデータを使用することによって生じます。

問題は、アナリティクスやアプリケーションヘデータを提供  
する前のデータ準備不足がど  
のような結果につながるの  
か、多くの企業が影響を過小  
評価している点です。





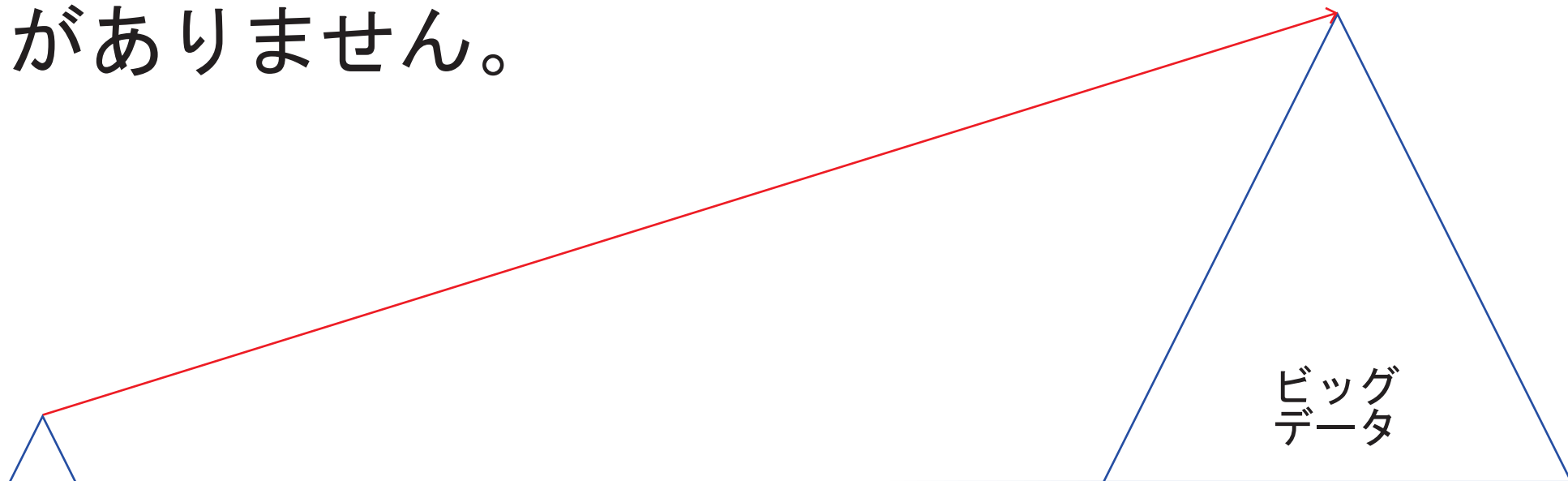
いくら高度なアナリティクス  
テクノロジーを使用してい  
ても、基盤となるデータの準備  
が整っていないなければ失敗する  
のは当然です。



また、豊富な実績に裏打ちされた、繰り返し可能な方法を確立していなければ、結局は手作業でのコーディングのようなその場限りの対応に頼ることになります。

小規模なプロジェクトであればこのような戦略で乗り切ることができるかもしれませんが、ビッグデータのような規模と複雑さでは、とてつもない作業となります。

これでいい結果が得られませんがありません。



# 1

給与が高く優秀で希少な人材であるデータサイエンティストが、ほとんどの時間をデータ ラングリング (多様なデータ形式の体系化・整理) という割に合わない作業に費やしています。<sup>3</sup>

インサイトの提供という本来の職務に費やす時間は全体の中のわずかに過ぎません。



## 2

経営幹部は、送られてきた信頼性の低いデータに基づいて意思決定を行うしかありません。しかしデータを信頼できなければ、その分析結果を信頼することも、「インサイト」を信頼することもできません。

このようにして、それまでに投資してきたはずの「データ主導の意思決定」は、「データ主導の期待外れ」な結果に終わります。

# 3

ビッグデータの準備を手作業で行うことはプロジェクトの遅延やコストの増加を招くだけでなく、持続可能性がないことも広く知られています。規模を拡張できず、ミスが起こる恐れがあり、長い時間がかかるため、繰り返し適用することは容易ではありません。

このようなことから、突如としてビッグデータプログラムは時間とコストのかかる単発のプロジェクトであり、企業にとって信頼できない重荷であると考えられてしまうようになるのです。

明るいニュース  
もあります。



ビッグデータを扱う、  
良い方法があります。

この方法は  
マスターデータ管理が出発点になります  
(略称：MDM)

MDM

良い方法があることを知った今、ビッグデータを活用した意思決定をどのように強化するのかを知りたくはありませんか。

[電子ブック](#)  
[はこちら](#)

MDMは、ビッグデータプロジェクトの重要な品質を強化する手法です。



顧客や製品、サプライヤー、サイトに関する最も重要なデータの360度のビューを提供します。

MDMは、ビッグデータプロジェクトの重要な品質を強化する手法です。



重複を自動調整するリッチな「マスター」プロフィールで、すべてのデータを管理します。たとえば、「J. Robinson」と「Jodie Robinson」のレコードを統合し、唯一無比のバージョンに統一する必要があることを認識します。

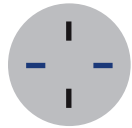
MDMは、ビッグデータプロジェクトの重要な品質を強化する手法です。



すべてのデータをクリーンで正確かつ最新の状態に自動的に維持し、適切なデータをアナリティクスやアプリケーションに供給することで、社内全体のプロセスと意思決定を向上させます。



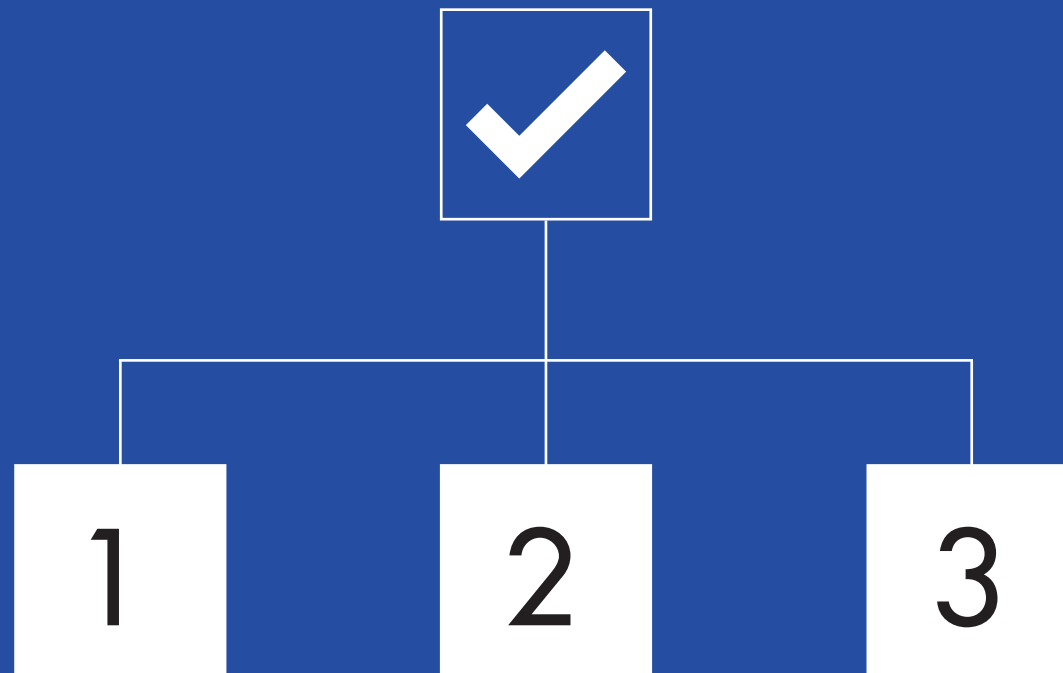
# MDMは、ビッグデータプロジェクトの重要な品質を強化する手法です。



また、これらのマスタープロフィールを管理することによって、プロフィール間の関係も可視化できます。したがって、たとえばJodieといずれかの製品とのすべてのインタラクションの完全なビューを作成して調べることが可能になります。また、Jodieが顧客の1人であるGeorgeと結婚していることを知ることもできます。

ビッグデータをdecision-ready (グレートデータから新たなビジネスインサイトを活用できるように変える最も効率的な方法) なのです。

グレートデータが重要である3つの理由：



1

給与が高く優秀で希少な人材であるデータサイエンティストが、本来期待される職務であるインサイトの提供に集中できます

(データのクリーニングや健全性の確保に時間を無駄に費やすことから解放)。

2

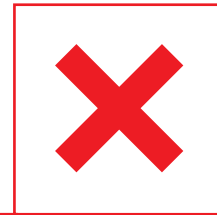
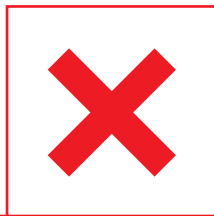
経営幹部が、信頼できるデータに基づいて意思決定を下すことができます（チャートが正しいことを祈るのではなく）。

# 3

組織が求めるインサイトを提供するのに必要な、ビッグデータプロジェクトの信頼性と拡張性が高まります（拡張が必要になるたびに多大なコストと何か月もの時間を費やすことはなくなります）。

つまり、ビッグデータプロジェクトの最大の失敗要因を取り除くことができるのです。

質の低い  
データです。





また、すべての重要事項について  
クリーンで関連付けられたビ  
ューを提供します。



これが、ビッグデータを活用して大きな成果を得るための方法です。

こうして実現するのが

decision ready.

(グレートデータからの新たなビジネス  
インサイトを活用できる) 組織です。

# 参考文献

ビッグデータでのMDMの有用性については以下をお読みください。

ビッグデータ世界のマスターデータ管理  
decision-ready（グレートデータから新たなビジネスインサイトを活用できる）組織になる



[今すぐ読む](#)

# インフォマティカ について

インフォマティカは、ビッグデータに取り組むあらゆる規模の企業がdecision-ready（グレートデータから新たなビジネスインサイトを活用できる）組織になるよう支援します。インフォマティカのMDMソリューションは顧客、製品、サプライヤー、場所に対する360度のビューを提供し、業務担当者の作業をサポートします。

お問い合わせ  
はこちら

# 出典

1. <http://www.analytics-magazine.org/july-august-2014/1074-the-data-economy-why-do-so-many-analytics-projects-fail>
2. <http://blogs.gartner.com/svetlana-sicular?s=0lbid>
3. [http://www.nytimes.com/2014/08/18/technology/for-big-data-scientists-hurdle-to-insights-is-janitor-work.html?\\_r=0lbid](http://www.nytimes.com/2014/08/18/technology/for-big-data-scientists-hurdle-to-insights-is-janitor-work.html?_r=0lbid)